

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立永山高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 経営企画室長 宇津木未来子＝事務局長、教務部2名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、総務保健主任
主幹教諭（第1学年主任）、主幹教諭（第2学年主任） 計9名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
東京女子体育大学教授 出張吉訓、多摩市立諏訪中学校長 齊木伸郎、永山タウンハウス5-29団地
管理組合理事 浅野卓郎、多摩市教育委員会 高橋 篤、元本校校長 田中昭光、
PTA元会長 錦織真紀子、PTA会長 矢口江里 計7名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年6月20日（木）内部委員9名、協議委員5名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画の説明、本校の現状と課題等の説明、意見交換
 - 第2回 令和6年11月14日（木）内部委員6名、協議委員4名
授業公開、教育活動に関する中間報告、学校評価に関する検討、意見交換
 - 第3回 令和7年2月6日（木）内部委員9名、協議委員6名
授業公開、教育活動に関する成果と課題についての協議、学校評価結果の報告
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年6月20日（木）内部委員2名、協議委員1名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価アンケートの実施に向けた検討
 - 第2回 令和6年11月14日（木）内部委員1名、協議委員2名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第3回 令和7年2月6日（木）内部委員2名、協議委員2名
学校評価アンケート結果の説明、協議

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケートの実施時期、対象、規模
 - 1月 全校生徒 対象：889人 回収：740人 回収率：83.2%
 - 1月 保護者 対象：887戸 回収：298戸 回収率：33.5%
 - 1月 教職員 対象：55人 回収：49人 回収率：89.1%
 - 1月 地域住民 対象：30軒 回収：2軒 回収率：6.7%※対象地域：タウンハウス永山5-29団地
- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、ライフ・ワーク・バランスの推進、施設・設備、保護者との連携
- (4) 評価結果の概要
 - ア 昨年度と比較し、分析した。
 - イ 生徒及び教職員は全体的には肯定的な回答が増加している。
 - ウ 保護者は肯定的な回答が減少し、生活指導に関する生徒と保護者の意見が増えた。
- (5) 評価結果の分析・考察
【学校運営】
 - ア 「入学させて良かった」に関する保護者の肯定的な評価が79%と昨年より14ポイント増加し、また、積極的な情報発信に対する肯定的な評価が11ポイント増加した。全体的に学校の教育活動への理解度が高まってきていると考えられる。

イ 組織的な学校運営について、教職員の評価が高まっている。教育活動や生活指導の面での校内研修の成果と考える。

ウ 体罰・暴言防止や教育相談の充実、資格取得について、保護者から厳しい評価を得ている。課題を整理し取り組んでいく。

【学習指導】

ア 「自分なりの課題や目的をもって日々の授業に臨んでいる」生徒は 59%と昨年に比べ増加した。進路目標を早めに設定する指導の成果と考える。

イ 「授業は分かりやすい」と回答した生徒は 64%と昨年より 10 ポイント増加している。教員の授業改善に向け、引き続き取り組んでいく。

ウ 家庭学習時間については、学習習慣が身に付いている生徒が少なく、ほとんどテスト前の学習となっている。日常的な学習習慣の獲得に向け課題が残る。

【生活指導】

ア 「学校生活のきまり」やルールを守ることについては、生徒の肯定的な回答が増加している。制服の正しい着用について、生徒会を中心とした主体的な活動が行われ、さらなる向上を期待したい。

イ 「学校生活のきまり」に対する保護者の自由記述への記入が多かった。

ウ 学校行事(体育祭、文化祭)は充実していると肯定的な回答をした生徒及び保護者が増加している。改修後初めてのグラウンドでの体育祭をはじめ、生徒の主体性が芽生えた行事運営について更なる成果を期待したい。

エ 全教職員共通理解の下での組織的な生活指導の実践に対し、肯定的な回答が 72%と増加した。校内研修により、組織的な生活指導について理解を深めた成果と考える。

オ 部活動については、全体的に肯定的な回答が多いが、加入率は思った以上に増加していない。活動している生徒の満足度の向上がみられるが、学校全体としてとらえると課題が残る。また、教育データ活用では、部活動に取り組む生徒は学習面でも成果が出ているため、更に活性化したい。

カ 登下校時の交通ルールについては、依然として課題である。

【進路指導】

ア 進路指導については、生徒の回答で肯定的な回答が全体的に増加傾向である。引き続き情報発信及び、進路行事の内容精査を行っていく。

イ 高校卒業後の進路についてお子様と意見交換することが大切だと思いと回答した保護者は 99%であり、生徒の進路について保護者も積極的に関わる必要があると考えていることが理解できる。

ウ 探究心の向上について、生徒の肯定的な回答が増加している。科目「総合的な探究の時間」の取組をはじめ、引き続き組織的な取組に向けて改善していく必要がある。

【その他】

ア 学校ホームページの充実について、肯定的な回答が少ない。学校の魅力発信の面で重要となるので、課題意識をもって改善に取り組む。

イ 本校における特別支援教育の取組が充実していると回答した教職員が少ない。教育相談の改善は図られたと感じるが、特別支援教育に関する校内研修を充実させ、特別支援教育の充実に向けて取り組んでいく必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

ア 探究活動に関する助言から、学習効果の再確認と成果の向上に向け理解を深めた。

イ 多摩市や中学校との連携について協議することにより、お互いの取組について理解が深まった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

ア 学校評価アンケート結果に対する学校の対応の明確化

イ 生活指導の場面での教員の対応

ウ 少子化での生徒募集について、地域連携の強化

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

ア 年度当初、生徒及び保護者に対して学校の教育方針を説明する。

イ 校務分掌の活性化を図り、学校全体で組織的な教育活動を推進する。

ウ 教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する。

(2) 学習指導

ア 平常の授業や模擬試験等を通して学力伸長を図る組織的計画的な学習指導を継続する。

イ 観点別学習評価を活用した「指導と評価の一体化」を推進し、生徒のより主体的な学びについて授業改善を図る。

ウ 目的意識の高い生徒の対応を含め、校内研修会等を通して授業力向上に努める。

(3) 生活指導

ア 組織的な生活指導を推進し、生徒に寄り添う指導を実践する。

イ 本校の生活指導方針を生徒や保護者に示し理解と連携を図り、引き続き安心・安全な学校生活の実現に取り組む。

ウ 生活指導部を中心に規範意識の醸成に努める。

エ 体罰・不適切な指導、暴言の防止に向け、より一層の意識向上を図り組織的に取り組む。

(4) 進路指導

ア 進路指導部が中心となり、大学進学を中心に高校三年間を見据えた計画的な進路指導を推進する。

イ 進路行事の内容に関し精査する。

ウ 進路相談室や自習機の利活用について、生徒及び保護者に情報発信をする。

(5) 健康・安全

ア 学校の統一した取組みとして、保健環境委員会やホームルーム担任を中心に校内環境整備や清掃活動の徹底を図る。

イ 教育活動上の安全点検を定期的に実施する。

(6) 特別活動

ア 生徒会を中心に、生徒が主体的に取り組める学校行事を推進する。

イ 部活動の活性化に向けて生徒への働きかけを強化し、部活動加入率の向上を目指す。

ウ 部活動の技術指導ができる外部人材を積極的に招聘し、部活動の充実を図る。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数 3人

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
1	2	2	0	0	1	1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

8 その他

(1) 回収率を上げるためにQRコードの読み取りによるアンケートを実施したが、回収率が思うように上がらなかった。検討し改善する。

(2) 引き続き多摩市内唯一の都立高校として地域に根付いた教育活動を推進していく。